

平成 29 年 9 月 20 日

北海道サッカー協会 審判委員会 各位

北海道レフェリーアカデミー第 7 回 議事録

報告者：堀 悠雅（札幌）

<日 時> 平成 29 年 9 月 17 日（日）、9 月 18 日（月）

<場 所> 北海道帯広緑陽高等学校、白樺学園高等学校、帯広の森陸上競技場、明治十勝オーバル

<参加者>

J F A アカデミーマスター：太田 潔 氏

北海道アカデミーマスター：山崎 裕彦 氏

インストラクター：森 英樹 氏 阿部 義秀 氏 山下 浩司 氏
今川 一輔 氏 村山 尚哉 氏

審判員：堀 悠雅、宗像 瞭、板矢 智志、須摩 和樹
HKFA 強化指定審判員

9 月 17 日（日）

8：30 集合、開講式

10：00 試合①高円宮杯 U-18 サッカーリーグ 2017 道東ブロックリーグ（2 部）

帯広緑陽 2nd VS 帯広農業（R：宗像 A1：堀 A2 佐々木 4 t h 鈴木）

13:00 試合②高円宮杯 U-18 サッカーリーグ 2017 道東ブロックリーグ（2 部）

清水 VS 帯広工業（R：板矢 A1：須摩 A2：原田 4 t h：山崎）

15：10 移動

16:00 体カテスト（12分走）

宗像→3320m、堀→3180m、須摩→2680m、板矢→負傷離脱

17：00 競技規則テスト



18:00 技術との協調 JFA 地域チーフインストラクター 横田 秀樹 A 級コーチ



①世界基準を日常に→世界で通用する選手を育てるために Intensity and Quality を高めて行くことが必要である。守備としては球際の激しさ、本気で奪うということを掲げ、アプローチの距離や予測、間合いが大切である。そのため、技術としてこれらをメインに指導して行くため、アプローチの距離が近くなり球際の激しさが増して行くサッカーが予想される。攻撃面ではスペーススピード、判断、サポートが課題である。スペーススピードを高めて行くためにはパスのスピードを高めることが重要であり、良い判断を行うには良い準備が必要で、サポートとしては選手同士の距離感やトライアングルでの関係が重要である。良い守備から良い攻撃を生み出すために基本の徹底を行う。

②戦術的観点→現代のサッカーでは縦に速いサッカーが主流である。審判員としてはトランディションにどこまでついていけるか、どこまで先読みできるかまた①でもあげたように激しさが増すプレーが増えるため、激しい・厳しい or 汚に・不正なファールの見極めが必要となってくる。

③サッカーを文化に→技術委員会としてウェルフェアオフィサーの配置を行っている。このことで、審判との協力体制を整えることが可能になった。

北海道においては審判の資格と技術の資格の両方を保持してる方が多い。このようなことはモデルであり、審判と技術の協調によってより良い日本のサッカーの発展に貢献していくことが重要である。

19:40 全体打ち合わせ、確認

19:45 1日目 終了

9月18日(月)

6:45 集合、日程確認

6:50 朝食

8:30 移動

9:00 イントレ合同研修



「PA 付近でのFK マネジメント」 今川 INS、山下 INS

フリーキックを行う手順として①直接または間接フリーキックのシグナル②ボール管理、再会場所③クイックリスタートの有無④壁のコントロール(セレモニー)⑤refereeのポジション⑥笛で再開である。特にゴール前で得点にも関わることが多いため、このような手順を状況に応じてしっかりと行うことが大切である。(講義形式は数人で相談し合いながら手順について整理を行った。)

10:05 「GKの交代」

阿部 INS



試合中どのようなことに注意しなければならないか、ペナルティーマークからのキック時について①交代枠があるときの対応②交代枠がないときの対応③キックの人数調整をしたときの対応について整理した。特に競技規則に記載されている「ペナルティーマークからのキックの前または進行中にゴールキーパーがプレーを続けられなくなったとき、競技者数を等しくするために除外された競技者とゴールキーパーが入れ替わることができる、また、そのチームが競技会規定に

定められた最大数の交代を完了していなければ、氏名を届けられている交代要員と交代できる。退いたゴールキーパーは、それ以降のペナルティーマークからのキックに参加できず、キッカーを務めることもできない。」という改正された文言にも整理を行った。

10：45 「負傷者の対応」 伊藤 INS

昨年改正された「相手競技者が警告される、または退場を命じられるような身体的反則の結果として競技者が負傷したが、負傷の程度の判断と治療が素早く完了できる」というフィールドから退出しなくても良い部分について背景を考えながら（相手競技者によって負傷させられたにもかかわらず、反則を犯した方のチームがプレー再開時に数的有利になり、公平でないことになる）、手順について整理を行った。またこのようなことを考慮しながら、競技規則の P200 を参照に遅延行為を意識しなければならない点や素早くとはどれくらいの時間を指すのか（一般的なガイドラインとして誰もが試合再開の用意ができたときから 20～25 秒以上かけてはならない）という整理もおこなった。



11：15 「審判員の考え方」 山崎 HKFARAC マスター

前日の競技規則テストについて、間違いが多かった問題について復習、解説

→①ハーフタイムのインターバル中や延長戦に入る前に交代が行われる場合、交代の手続きは後半や延長戦のキックオフ前に完了させるものとする。主審に通知することなく、氏名が届けられた交代要員がプレーを続けた場合、懲戒処置は行わず、関係機関にこのことについて報告する。（間違いとしては懲戒処置を与えるという回答）

②フィールドに復帰するために主審の承認を承認を必要とする競技者が主審の承認なく復帰し、主審がプレーを停止した場合はプレーは次の方法で再開されなければならない。妨害があった位置から直接フリーキックで再開する、妨害がなかった場合、プレーが停止された時にボールがあった位置から間接フリーキックで再開する。（間違いとしては直接と間接の区別がされてことが多い回答）

③ペナルティーキック時、競技者がより重大な反則（例えば不正なフェイント）を犯した場合を除き、両チームの競技者が反則を犯した場合、キックは再び行われる。ただしゴールキーパーとキッカーが同時に反則を犯した場合：ボールがゴールに入った場合、キックをやり直し、両方の競技者は警告される、ボールがゴールに入った場合、得点は認められず、キッカーは警告され、守備側チームの間接フリーキックでプレーを再開する。（これらの整理がされていない回答があった）

④得点后、プレーが再開される前に、主審が、得点があった時にフィールド上に部外者がいたことに気づいた場合：主審は次の場合得点を認めてはならない：得点したチームの競技者、交代要員、交代して退いた競技者、退場となった競技者またはチーム役員であった時。この場合、部外者がいた位置から直接フリーキックで再開する。（間接フリーキックで再開するという回答があった）

まずはプレーヤーズファーストである。審判の役割は何なのか、自分の目標達成の場になっていないか、うまい2級になっていないか、今一度基本的なことから考える必要がある。その中で「動く」と「走る」の違い、「1級になりたい」のか「1級になる」のか失敗を活かせるか活かせないか、求めている人柄は何なのか、敗因を客観的に分析できているかということも重要で「人や物のせい」にしない人は伸び、2流は勝てない理由を考え、負けたことを忘れるが1流は勝つ方法を考え、負けた悔しさを忘れない。そもそも何のために、どういう覚悟で行っているのかということも考え直すと良い。

12：20 昼食

13：00 各試合分析

（帯広緑陽高校2nd-帯広農業高校）

R 自己分析→試合の中での課題として、「対角線式審判法」と「視野の確保」を目標に掲げていた。結果として、自己反省としては納得できるポジションにいられることは少なかった。ただし、前半と後半で、自分で考え方を変え、後半にはより、修正に近づいたと考えられたのは良かった点と考える。判定については正確なものできていなかった事象があったと思い、その正確性を求めるために動き方の改善が求められるのだと思う。

INS 分析→判定について、ホールディングの反則を見極められないことが多々あった。なんとなくで事象を認識しないで、一つ一つの事象に確信を持って判定をする。動きの面の改善としては、スプリントの際でも、次の争点を一つしか考えられていないことがあるため、複数の争点を認識しておくと思い。また、一つの争点を目指して突っ込みすぎるところもあるので、複数の争点に対応できるようなことも頭に入れておく必要がある。

（清水高校-帯広工業高校）



R 自己分析→試合の中の課題として動きと気づきを目標にあげた。動きについては、自分が予期した展開にならなかった。必要以上に動きを修正しなければならない動きとなった。特に、中盤での攻守の切り替えが多く自ら考えて動くというよりも動かされているという印象だった。気づきについては工業高校の競技者が主審に対してアピールしたり、味方選手に対するリスペクトのない発言を試合開始

からしていたため、最初のファウルで注意をした。しかし、対応をしているだけで効果的なものでなく試合を通して競技者が集中できていなかった。

INS 分析→全体的にポジションは中よりで幅が少なかったように感じる。チーム戦術や選手のキック力などを考慮すると、もっと幅を広げるポジションが可能となり、このことで争点の見え方がいい意味で変わってくると思う。気づきという点ではアフターファールをした競技者への対応は行っているものの、された競技者への配慮がなかったように感じる（気づいていない）。そのような気づきも一つの引き出しとして持っているといい。ディフェンスラインでパスを回してビルドアップしている最中にパスカットし展開が変わった時の動き出しは良かったので継続して行いたい。

14：15 全体、レフェリング振り返り

14：50 映像分析

堀→主に動きや動き出しをピックアップ

須磨→コーナキック時のマネジメント、的確なアドバンテージをピックアップ

板矢→的確なアドバンテージ、動きと動き出しをピックアップ

宗像→ジェスチャー、バックステップ、ポイント指示

各々いい点をピックアップし、自分との比較などを行いながら全体で共有した。

15：30 ビデオクリップディスカッション 伊藤 INS

「中盤～PA 付近の動き～」

映像を見ながら主審の動きや動き出しについてディスカッションを行った。特に主審がどのようなタイミングで、またどのようなコースで争点によっているのかということを中心に聞いた。



16：00 まとめ 太田 INS

日本のサッカーをこれから支える意識で取り組んでほしい。具体的なことは山崎 RDO がおっしゃっている通り。来年4月末に全国アカデミーの集中研修を行う予定なので、頭に入れておくこと。次のカテゴリーで会える日を楽しみにしている。

16：10 全日程終了、解散

